

VIDEO

ON SALE & RENTAL RELEASE

3月20日からニュープリント版ビデオ10巻+1巻をセル発売とレンタル・リリース。
VHS/HiFi-MoNo/各税抜4,000円/各税込4,200円

第1弾●3月20日

犯された白衣 DAV98053

腹貸し女 DAV98054

胎児が密猟する時 DAV98055

特別同時発売●

略称 連続射殺魔 足立正生、他共同監督 DAV98052

第2弾●4月20日

性賊 セックス・ジャック DAV98056

ゆけゆけ二度目の処女 DAV98057

壁の中の秘事 DAV98058

狂走情死考 DAV98059

第3弾●5月20日

天使の恍惚 DAV98060

処女ゲバゲバ DAV98061

現代好色伝 テロルの季節 DAV98062

ビデオの購入方法 ■①特約店リストの書店、WAVE、HMV、タワーレコード、ヴァージン・メガストア、TSUTAYA、他でお求めになるか、②全国どこの書店でもご注文いただけます。③通販はクレジット・カード(AMEX、JCB、VISA、ダイナース、NICOS、マスター、ミリオン、UC)をご利用いただけます。商品名と住所、氏名、電話番号、カード名、カード番号、カード有効期限をお知らせください。④代引きは商品名と住所、氏名、電話番号をお知らせください。代金は商品到着時に税込代金と手数料360円をお支払いください。⑤郵便振替は郵便局から用紙に口座名=ダゲレオ出版と口座番号=00120-7-57921、商品名と住所、氏名を記入の上、税込代金と手数料60円をお支払いください。以上、送料は無料。土・日・祝日を除いた午前10時から午後7時まで受付。

BOOK

若松孝二 俺は手を汚す

若松孝二が自らの映画と波乱の半生を語る。

四六判並製224ページ/定価1,200円(税抜)/書店にて発売中!

発売・販売●(株)ダゲレオ出版/イメージフォーラム

東京都新宿区四谷3-5、〒160

TEL.03-3357-8046 FAX.03-3359-7532

電子メール imageforum@asahi-net.or.jp

インターネット www.imageforum.co.jp

私が選んだ若松孝二映画 BEST 1

『狂走情死行』

僕の若松映画ベスト・ワンは『狂走情死行』です。素っ裸の女が雪の中を、学生活動家が浄水場跡を、それぞれ逃げるシーンが目に焼きついており、おそらく一生忘れないと思います。なお、本作の英語タイトルですが、かつて佐藤重臣氏が訳されたと言う「RUNNING・DIE・LOVE」の方が、“雰囲気”ではないのでしょうか? 赤田祐一(「Quick Japan」編集長)

『胎児が密猟する時』

♡アナーキーでスキャンダラスな密室劇であると同時に、究極の開放感がある邪悪な傑作。 北川れい子(映画評論家)

『犯された白衣』

必ずや超えるべき先達として秘かに私の心の中に刻んだ名前の中に若松孝二がいる。 原一男(映画監督)

『性賊 セックスジャック』

なによりも60-70年代初頭にかけての日本・東京の風景がなまなましくよみがえってくる。ぞくぞくする幻視のドキュメンタリーだ。どの作品もいいが、ひとまず『性賊』をおすすめする。いまでも鳥肌がたつ思いだ。 小野耕世(映画評論家)

『狂走情死行』

若松孝二は二人いる、と思う人がいても不思議ではない。 荒井晴彦(監督/脚本家)

『胎児が密猟する時』

「食べ物とエロス」の街、大阪から上京した僕は、若松孝二の作品を観て東京は「政治とエロス」の街なんだということが発見した。 浅井隆(アップリンク主宰/餃子編集長)

『犯された白衣』

シナリオなしで描かれたこの作品のパワーを見よ! かわなかのぶひろ(映像作家)

『天使の恍惚』『処女ゲバゲバ』『ゆけゆけ二度目の処女』『性賊 セックスジャック』

私は若松孝二監督の助監督をしながら『胎児が密猟する時』等のポスターをデザインし、ハダカ可のシロート女優をスカウトし、音楽監督のようなことをし、出演もする……といった八方美人的WORKを18~22歳のあいだ日常としていました。数々の作品にたずさわりましたが、私自身の作業として!

『天使の恍惚』の主題歌づくり ②『処女ゲバゲバ』の音楽づくり ③『ゆけゆけ二度目の処女』の出演と主題歌づくり ④『性賊 セックスジャック』の出演が特に印象に残っています。約30年前の若僧だった自分のしていたことが(現在につながる過去が)皆さまのパワーによって博覧會的に事件化されることは、何だかオドロいちゃうし、新たなるデキゴトになれば、こりゃウレシイと思います。

秋山道男(スコブルコンプレックス会社代表)

『天使の恍惚』

パレスチナ闘争の空気を肌で感じた監督が自立した個の闘いに向けて送ったメッセージ。

岡留安則(「噂の真相」編集長)

(順不同)

KOJI WAKAMATSU

1965-1972

JAPAN, AVANT-GARDE, POP

& VIOLENCE MOVIES

若松孝二 1965-1972

ジャパン・アバンギャルド、ポップ&バイオレンス ムービー

日本が生んだ最も暴力的で政治とエロス、そして究極の愛に満ちた映画を作った若松孝二。
'60年代から'70年代にかけての全共闘、学園闘争の熱い時代に正面からぶつかり格闘した10本の映画。
それらは全てピンク映画というフィールドから生まれたポップな異端児たちであった。
いまにわかに海外からも注目を集める若松孝二の衝撃的な10作品をすべてニュープリントで一挙上映!!

永山則夫をテーマにした幻の風景映画「略称 連続射殺魔」(足立正生制作)も特別同時上映。

Affairs in the Wall
壁の中の秘事 1965

The Embryo
胎児が密猟する時 1966

Violated Angels
犯された白衣 1967

A Womb to Let
腹貸し女 1968

Running in Madness, Dying in Love
狂走情死考 1969

Violent Virgin
処女ゲバゲバ 1969

Go, Go, Second Time Virgin
ゆけゆけ二度目の処女 1969

Season of Terror
現代好色伝テロルの季節 1969

Sex Jack
性賊 セックス・ジャック 1970

Ecstasy of The Angels
天使の恍惚 1972

特別同時上映

A.K.A. Serial Killer
略称 連続射殺魔 1969 足立正生制作

企画 ■ /mageForum
提供 ■ 若松プロダクション + /mageForum

KOJI WAKAMATSU 1965-1972

JAPAN, AVANT-GARDE, POP & VIOLENCE MOVIES

若松孝二 1965-1972 ジャパン、アバンギャルド、ポップ&バイオレンス ムービー

これらは「ベスト・オブ・若松孝二」であり、「ベスト・オブ1960～70」である。
諸君は時代と若松孝二の血の臭いを嗅ぐことができるだろう。—— 大島渚

壁の中の秘事 1965

シネスコ/モノクロ/74分/16mm版からの復刻版16mmニュープリント/脚本:大谷義明(曾根中生、吉沢京夫)/撮影:伊東英男/照明:森久保雪一/音楽:西山登/出演:藤野博子、寺島幹夫、吉沢京夫/1965年ベルリン国際映画祭正式出品作品

●1965年のベルリン映画祭に邦画大手5社作品を押しつけて堂々、正式出品作品に選ばれて一躍、若松を有名にした作品。弱小エロダクションごときが日本代表かと、当時「国辱」映画呼ばわりされたが、いかなる他の邦画よりも同時代の〈対世界〉感受性において優れていた事は現在見れば明白だ。曾根中生による初稿脚本を大島渚の同志・吉沢京夫、等が改稿。団地妻の日常性がその最深部で政治的世界と連鎖し合っている事を、時にスキャンダラスに時に繊細な筆触で、一気呵成に描き出した若松の出世作である。

胎児が密猟する時 1966

若松プロダクション/シネスコ/モノクロ/72分/35mmニュープリント/脚本:大谷義明(足立正生)/撮影:伊東英男/照明:磯貝一/出演:山谷初男、志摩みはる/1968年ベルギー王室実験映画祭招待

●若松孝二の“妄想”を足立正生が脚本化。男と女とマンションの一室、これだけのシチュエーションから濃密な調教愛の物語が紡ぎ出されていく。巨大な頭の奇形児を思わせる山谷初男のキャスティングが絶妙だ。タイトルバックで示される胎児とも共有するイメージ。山谷はいわば幼態のまま成熟してしまったウーパールーパーなのだ。若松の視点、生への呪いというよりも生誕以前の生への憧憬に満ちた、いっせ心地良い。マンションの狭い廊下の効果的使用といい、これは状況設定、演技、演出、全て奇跡的にマッチングした傑作である。

犯された白衣 1967

若松プロダクション/パートカラー/シネスコ/57分/35mmニュープリント/脚本:若松孝二、山下治、唐十郎/撮影:伊東英男/照明:磯貝一/音楽:高村光二/出演:唐十郎、林美樹、小柳千子/1971年カンヌ映画祭監督週間招待、1972年ベネチア映画祭招待

●若松孝二のアイデアを山下治と、当時「状況劇場」を主宰していた俳優、劇作家・唐十郎の三人で脚本化。シカゴで起きた看護婦大量殺人事件が発想のヒントになっている。一人だけ殺されなかった女がいた。それは何故なのか、その意味が「わかった」時、映画を作る気になったという。女体への憎悪がそのまま“癒し”に反転する物語は「胎児」に連なる物だが、戦略的というより本能的選択に思えるカラーの使い方は極私的かつ大胆だ。「何故、殺すの」「何故、見るの」と交わされる会話の美しさ。静けさをたたえる「海ほうずき」のメロディ。「状況」を超えた傑作だ。

腹貸し女 1968

若松プロダクション/パートカラー/シネスコ/70分/35mmニュープリント/脚本:出口出(足立正生)/撮影:伊東英男/照明:磯貝一/音楽:ジャックス/出演:門麻実、吉沢健、伊地知幸子、津崎公平、ジャックス

●有力代議士の愛人として因習的な“家”の魔力にからめとられる姉と、彼らに養われながら心の底では自由を求める妹。不能の代議士は姉妹に人工授精させて、自分の子孫を残そうとするが、この計画には姉のある策略が隠されていた……。製作当時それほど評価されなかった本作が、むしろ今見て新鮮なのは音楽を担当し出演している“ジャックス”の存在による。早川義夫のエキセントリックなヴォーカルが、ヨーロッパスタイルのギターサウンドと共に魅了。現在からは想像もつかない原宿のどかな風景も必見の怪作。

狂走情死考 1969

若松プロダクション/カラー/シネスコ/72分/35mmニュープリント/脚本:出口出(足立正生)/撮影:伊東英男/照明:磯貝一/音楽:山下武士/出演:吉沢健、武藤洋子、戸浦六宏、山谷初男、佐藤重臣、足立正生

●タイトル通り男と女の“狂走”が極めて印象的な一本。男は映画の冒頭、新宿西口の浄水場跡地(当時は高層ビル建築ラッシュ直前だった)を延々と逃走する。女は零下10度の北海道、支笏湖畔を全裸で走る。男は学生活動家。女は彼の兄の警察官を誤射して殺した。その嫁。二人は官憲の追跡を逃れひたすら北上し、ついに北海道の雪の大地に立つのである。「誤射」と書いたが、夫とその弟の口論に耐えられず、いざ夫の方を夫の銃で殺した妻の行為は、むしろ義理の弟を情死へと誘いこむ。いざさか狂気じみた愛のかたちでもあった。海が狂気と“癒し”を丸ごとくろみこんで正に圧巻。

処女ゲバゲバ 1969

若松プロダクション/パートカラー/シネスコ/66分/35mmニュープリント/脚本:出口出(大和屋竺)/撮影:伊東英男/照明:磯貝一/音楽:迷宮世界/出演:谷川俊之、芦川絵里、林美樹、大和屋竺、木俣純

●脚本家、監督・故・大和屋竺に、アイデアを示唆して出来上がった傑作脚本「ガセネタの荒野」の映画化。当時ほとんど自閉の状態だった大和屋を富士のすそ野に連れていき、この荒野を密室に見立ててみよと若松は言ったという。映画タイトルは大島渚の命名。特に意味はない。処刑のため荒野に連れて来られたチンピラとその恋人。ボスは処刑人に、そのチンピラをボスの情婦達とセックスさせ、その間、男をボスと呼ぶように命じた……。プレイヤー「金枝篇」をヒントにした脚本は「荒野」指向・大和屋が「密室」指向・若松へあてた一種の信仰告白だったのかもしれない。

ゆけゆけ二度目の処女 1969

若松プロダクション/パートカラー/シネスコ/65分/35mmニュープリント/脚本:出口出(足立正生、小水一男)/撮影:伊東英男/照明:磯貝一/音楽:迷宮世界/出演:小椋ミミ、秋山未知汚(道男)/1972年ベネチア映画祭招待

●都心のマンションの屋上でフーテン達に輪姦される少女と、それを見つめる少年の一晚の残酷なラブストーリー。死にたいとつぶやく少女を少年は自分の部屋に導く。そこには、少年を汚そうとして彼の怒りをかい、殺された男女四人の死体があった……。『ゆけ、ゆけ二度目の処女』で始まる少女の独白、ブルース調の主題歌の詩とメロディ、二人に降りかかるドシャ降りの雨、そして殺りく。全てが唐突でしかも確信にあふれ、それまでに日本映画が獲得した事のなかった“ちぐはぐ”な美しさをたたえている。60年代の日本映画の到達点を示す若松孝二の最高傑作のひとつ。

現代好色伝 テロルの季節 1969

若松プロダクション/パートカラー/シネスコ/78分/35mmニュープリント/脚本:出口出(小水一男)/撮影:伊東英男/照明:磯貝一/音楽:迷宮世界/出演:吉沢健、江島裕子、佐原知美

●当局に要注意人物として尾行されている、かつての政治活動家。だが彼は今、二人の女と団地に暮らしセックスをくり返すばかり。刑事達が監視をやめた日、彼は腹にダイナマイトを巻きつけ、テロリストとして単身、羽田空港に突入する。総理の訪米を阻止するために。大石内蔵之助の70年安本版といった捉え方が当時なされたが、今見ると、テロリストのダンディズムよりも男1女2の何とものどかな性共同体のありように心ひかれる。女からは男は「ゴロニヤン」と呼ばれ愛されるのである。時代を手玉にとった佳作。

性賊セックス・ジャックいろはにほてと 1970

若松プロダクション/パートカラー/シネスコ/70分/35mmニュープリント/脚本:出口出(足立正生)/撮影:伊東英男/照明:磯貝一/音楽:音楽集団映像グループ/出演:秋山未知汚(道男)、小水一男、笹原茂枝、香取環、瓜生良介、寺島幹夫/1971年カンヌ映画祭監督週間招待

●アジトを襲撃され逃走する学生左翼活動家達。彼らが逃げこんだ路地裏に、何故か、見知らぬ一人の若者がいつの間にか一緒にいる。同じく警察を追われているゴンドロだという彼のアパートを、彼らは新たなアジトにすることに……。『バラ色の連帯』と称して女性活動家とセックスを繰り返す学生達にたいして「僕、ダメなんです」と拒絶する若者。『テロルの季節』とは好対照のひ弱なテロリストの描出において若松の演出は冴えわたる。テロリスト秋山未知汚が、同志を裏切った「大須」役の小水一男を処刑する場面も圧倒的。彼等の顔と表情の魅力は同時代の日本映画の水準をはるかに超えている。



若松孝二 *Koji Wakamatsu* ●1936年、宮城県に生まれる。農業高校二年生の時に家出し、上京する。職人見習い、新聞配達、ヤクザと職を転々とし、テレビ映画の助監督をへて、63年ピンク映画「甘い罠」で監督デビュー。派手な暴力シーンと量産ぶりで“ピンクの巨匠”と呼ばれる。若松プロダクションを設立し、足立正生、大和屋竺らを抜てきし、60年から70年代へかけてエロスと暴力と政治にかかわる衝撃的な作品の数々を発表。学園闘争、全共闘の熱い時代の若者たちに熱狂的に支持される。71年には、足立正生とともにパレスチナで『赤軍—PFLP・世界戦争宣言』を撮る。その後も『餌食』(79)、『水のないプール』(82)、『キスより簡単』(91)、『エロチックな関係』(92)、『エンドレス・ワルツ』(95)等の作品を続々と発表。プロデュース作品には大和屋竺監督『荒野のダッチワイフ』(67)、足立正生監督『女学生ゲリラ』(69)、大島渚監督『愛のコリーダ』(76)、神代辰巳監督『赤い帽子の女』(82)等がある。監督作品だけで100本を超える日本で最も多作にしてアバンギャルドな映画監督。近年、海外での再評価の声が高まっている。

天使の恍惚 1972

若松プロダクション+ATG/パートカラー/スタンダード/89分/35mmニュープリント/脚本:出口出(足立正生)/撮影:伊東英男/照明:磯貝一/音楽:山下洋輔トリオ/スチール:中平卓馬/出演:吉沢健、横山リエ、荒砂ゆき、足立正生、秋山ミチヲ(道男)、山下洋輔、岩淵進

●革命軍「四季協会」の秋軍団は首都総攻撃を期し米軍基地襲撃、武器奪取作戦を敢行する。本作の原題は『天使の爆殺』である。さる大手全国紙は本作をはっきり「無差別テロ映画」と呼んで非難した。若松自身の後に語った言葉を借りるなら「東京爆破宣言」。パレスチナ闘争支援のドキュメンタリー『赤軍—PFLP・世界戦争宣言』の直後の作品であり、国内的には学生運動の退潮期の初期とも重なって、その後の極左組織内の内ゲバやリンチ殺人への予兆のような息苦しさを持った作品となった。人ごみの中を歩み去る吉沢健の背中が痛々しい。

特別同時上映

略称 連続射殺魔 1969

カラー/スタンダード/86分/35mm/共同制作:足立正生、岩淵進、野村政行、山崎裕、松田政男、佐々木守/音楽監督:相倉久人/音楽:富樫雅彦、高木元輝

●下層社会に生まれ育った一人の大家が「流浪」という存在態においてしか自らの階級形成をとげざるをえなかった時、したがって私たちが永山則夫の足跡を線でつなぐことによってもう一つの日本列島を幻視しようとした時、意外と言うべきか、線分の両端にあるところの点として、風景と呼ぶほかにない共通の因子をも発見することとなったのである。そしてそれは、この日本列島において、首都も辺境も、中央も地方も、東京も田舎も、一連の巨大都市としての劃一化されつつある途上に出現する、語の真の意味での均一な風景であった。私たちがスタッフ六人は、1969年の後半、文字通り、風景のみを撮りまくった。撮っては喋り、喋ってはラッシュを見、そして再び風景を撮った。作家と観客と批評家の回路が私たちの内部にできあがり、モーターが唸り、私たちが確かに私たちのまぼろしの日本地図をこの列島の上にあぶりだした時、映画が完成した。それは一種異様な風景映画であった。(松田政男)

●永山則夫は「無知の涙」「木橋」等の著書を残し、1997年8月1日、死刑を執行された。